

第7章



実現化方策

1. 計画の実現に向けた考え方

都市計画マスタープランは、土地利用や交通体系など住民に身近なまちづくりに関する指針を示すものです。都市計画マスタープランの推進にあたっては、市民や民間事業者との協働による仕組みづくりや個別の事業計画の立案など、計画の実効性を確保することが重要です。そこで、計画の実現に向けては、以下のような基本的な考え方により効率的・効果的なまちづくりの推進に努めます。

■情報の共有化

市民や事業者が共通認識のもと、将来都市構造の実現に向けたまちづくりに取り組むため、広報紙やホームページ、SNS*の活用だけでなく、パンフレットや事業内容に応じたチラシの発行など、まちづくりに関する情報の共有化に努めます。

■市民協働によるまちづくり

まちづくりの主役はそこで生活し、働く市民であるため、住民説明会やワークショップの開催などの機会を生かして市民からの意見を集約するとともに、多くの市民にまちづくりへの参画を促します。そして、まちづくりの担い手を発掘・育成する過程で、行政が積極的に支援することにより、市民の創意による地域の活性化と市民協働のまちづくりを推進します。

■まちづくり手法の検討

都市計画マスタープランの推進にあたっては、地域の特性や土地利用状況などを踏まえたうえで、市民の理解や協力を得ながら様々な手法を検討します。

- ・都市計画マスタープランで示された方向性を踏まえつつ、社会経済情勢を見極めながら、適宜、必要な都市計画の決定や変更を行います。
- ・将来都市構造の実現に向けて、コンパクト+ネットワーク*の理念を踏まえた立地適正化計画*の策定を検討します。
- ・民間資金や民間のノウハウの活用も視野に入れて、土地区画整理事業*や市街地再開発事業*などの市街地整備を進めます。

■まちづくり推進体制の整備

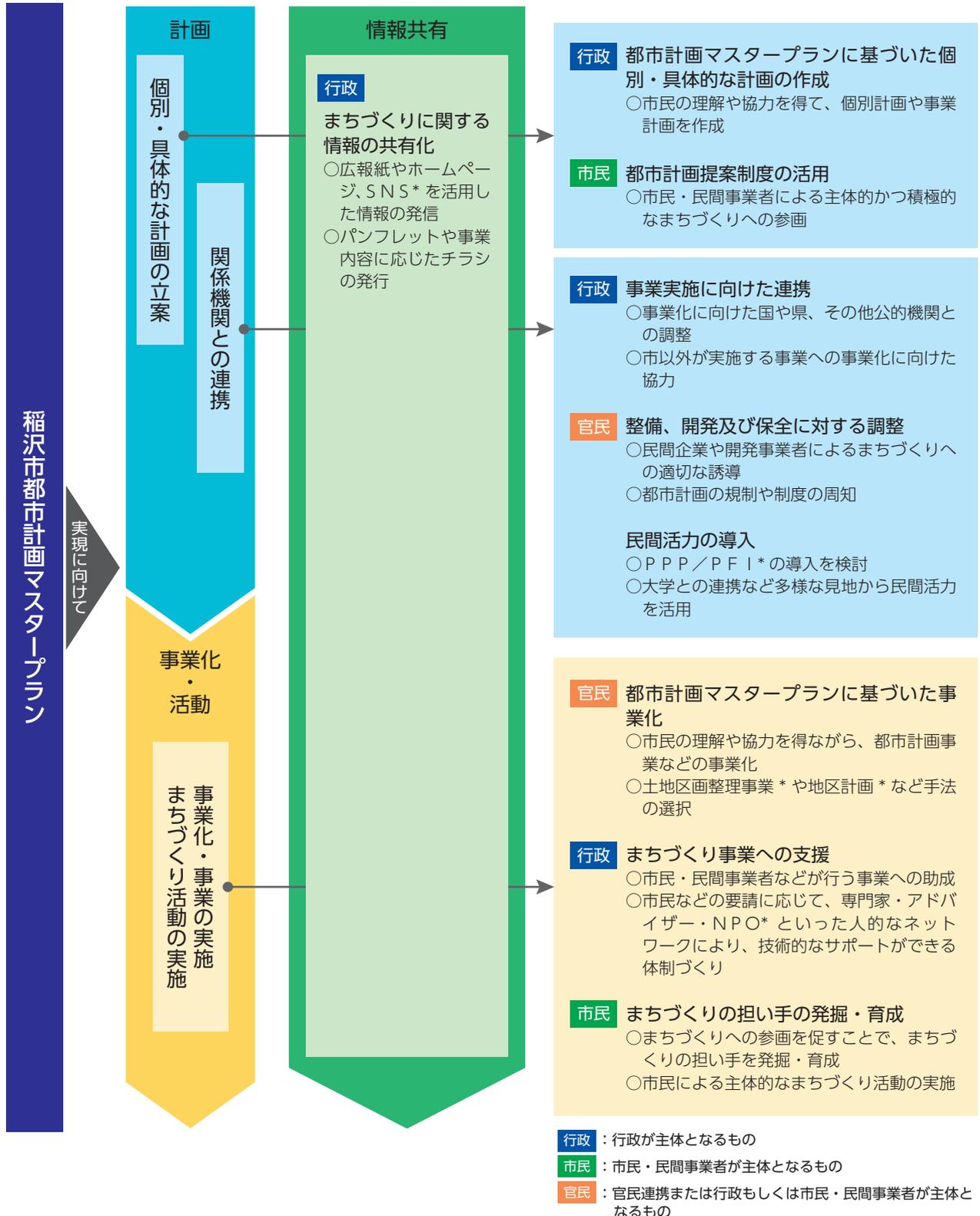
都市計画事業の事業化や事業の円滑な推進のため、庁内の連携強化や組織体制の充実を図るとともに、国や県、周辺自治体やその他公的機関と調整・協力をしながら、計画的にまちづくりを進めます。また、専門家・アドバイザー・NPO*といった人的なネットワークにより、技術的なサポートができる体制づくりに努めます。

■都市計画マスタープランの見直し

まちづくりを進めるにあたっては、社会経済情勢の変化や都市計画提案制度などによる住民主体のまちづくりの熟度に合わせた柔軟な対応も必要です。このため、本マスタープランは、本市の関連計画との整合を図りながら、適時適切な見直しを検討します。

2. 計画の取組みイメージ

計画の実現に向けた考え方にに基づき、個別の施策や事業を実施するまでの流れのイメージを示します。施策や事業の実施には、各段階において、市民・民間事業者または行政がそれぞれ主体となる取組みがありますが、計画の立案から事業の完了までには、密接な官民連携が不可欠です。関係機関との連携強化を図りながら、計画の実現を目指します。



3. 計画の進捗管理

都市計画マスタープランでは、都市づくりの目標で示した5つの視点（都市構造、都市活力、都市生活、都市環境、都市運営）ごとに、指標及び目標値・方向性を設定します。

なお、指標及び目標値・方向性の設定については、『稲沢市ステージアッププラン』に基づいた評価指標と参考指標となる市民満足度とします。また、進捗状況を把握しながら具体的な施策の展開を検討していき、計画期間の中間年度においては、本指標の計測による評価を行い、公表します。

評価指標

都市づくりの目標		指標	現況値	目標値・方向性 (2029 (令和11) 年度)
都市構造	暮らしを便利にする都市づくり	住居系市街地の新規増分	—	46ha
		産業系市街地の新規増分	—	30ha
都市活力	本市の立地優位性を生かした産業の活力に満ちた都市づくり	商品販売額	3,766億9,400万円 (2015 (平成27) 年)	↗
		製造品出荷額等	1兆800億2,147万円 (2018 (平成30) 年)	↗
都市生活	便利な生活を安心・安全におくることができる都市づくり	都市計画道路*整備率	66.5% (2018 (平成30) 年度末)	↗
		市民一人当たりの都市公園*面積	4.9㎡/人 (2018 (平成30) 年度末)	5.5 ㎡/人
	若い世代が住みたくなる都市づくり	下水道の汚水処理人口普及率	49.4% (2018 (平成30) 年度末)	↗
都市環境	本市の豊かな自然が感じられ、環境負荷が小さい都市づくり	コミュニティバスの一日平均利用者数	545人/日 (2018 (平成30) 年度)	↗
都市運営	次世代に引き継ぐ効率的な都市づくり	公共施設の総延床面積 (普通会計分)	407,177.48㎡ (2017 (平成29) 年度末)	↘

【参考】市民満足度

都市づくりの目標		指標	現況値	方向性 (2029 (令和11) 年度)
都市構造	暮らしを便利にする都市づくり	名鉄国府宮駅周辺の活気や魅力	33.1% (2018 (平成30) 年度)	↗
		J R 稲沢駅周辺の活気や魅力	24.5% (2018 (平成30) 年度)	↗
都市活力	本市の立地優位性を生かした産業の活力に満ちた都市づくり	商業の振興	34.2% (2018 (平成30) 年度)	↗
		工業の振興	43.1% (2018 (平成30) 年度)	↗
都市生活	便利な生活を安心・安全におくることができる都市づくり	道路の整備・利便性	44.8% (2018 (平成30) 年度)	↗
		身近な公園・緑地の親しみやすさ	53.3% (2018 (平成30) 年度)	↗
	若い世代が住みたくなる都市づくり	生活排水の安定処理	76.9% (2018 (平成30) 年度)	↗
都市環境	本市の豊かな自然が感じられ、環境負荷が小さい都市づくり	自然環境の保全	63.5% (2018 (平成30) 年度)	↗
		コミュニティバスの利用しやすさ	20.0% (2018 (平成30) 年度)	↗
都市運営	次世代に引き継ぐ効率的な都市づくり	効率的・効果的な行政運営	33.1% (2018 (平成30) 年度)	↗